

平成二十五年度 春季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「春」

期間 平成二十五年二月一日～平成二十五年四月末

投句数 一、〇八八句

特選三句

天

陽炎を追ひていつしか老いにけり

東京都大田区 山田隆紀

地

切株の椅子にバス待つ谷戸うらら

東京都武蔵野市 池田章子

人

虚子とのみ刻む墓標や白蝶来

千葉県市川市 高木ヤエ子

入選句

一般の部

梅咲くや何時もの道を瑞泉寺

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

春寒の谷戸の奥には如来の眼

神奈川県鎌倉市

小助川雅人

閻魔堂出て鎌倉の春深し

千葉県富津市

鈴木さとみ

風の出て石楠花岩に色こぼす

神奈川県横須賀市

山口義一

源氏山より春の水流れ来る

神奈川県横浜市戸塚区

芝田和男

待ちかねし初音に心緩みけり

神奈川県横浜市栄区

飯島一美

天井の龍の睨みや冴返る

東京都葛飾区

吉田美智子

露漱石の座禅せし寺すみれ草

大阪府寝屋川市

深水香津子

奥谷戸の風を紡ぎて梅白し

神奈川県川崎市麻生区

市東晶子

かまくらのやまうぐいすのこえといろ

愛知県春日井市

鯉江一輝

町騒を遠く春日の渚かな

神奈川県逗子市

佐藤信子

家ごとに小橋のありて春の川

神奈川県茅ヶ崎市

佐々木三智雄

あたたかや若宮大路人溢れ

埼玉県狭山市

古谷多賀子

初音して人の気配のなき古刹

東京都町田市

竹内弘

梅見んと北鎌倉の駅に降り

東京都板橋区

若林喜美夫

背を押され春一番の段葛

神奈川県横浜市青葉区

寺橋正光

八幡宮海へとつづく花の道

神奈川県鎌倉市

土山忠滋

菜の花を映して流る滑川

大阪府豊中市

安藤知明

虚子墓所を行きつ戻りつ番蝶

神奈川県茅ヶ崎市

高橋和子

ランドセル兄のおさがり初桜

神奈川県横浜市青葉区

長瀬正之

(順不同)

入選句

子どもの部

江ノ電の窓を開けたら春の風

埼玉県さいたま市南区

三宅風雅

菜の花の黄色も眩しい滑川

千葉県四街道市

鈴木佑佳

江ノ電に乗れば見える春の海

埼玉県さいたま市浦和区

内山智樹

ふきのとうつちのなかからこんにちは

神奈川県横浜市南区

松田暁音

だいぶつときくらちらきれいだな

神奈川県伊勢原市

知野見百合

うぐいすの声につつまれ文学館

神奈川県藤沢市

南澤 瞳

大仏のおなかの中はあたたかい

千葉県浦安市

須田悠雅

かまくらのさくらきれいだはるのつき

東京都杉並区

中村まお

おいけにねおたまじゃくしがおよいでる

東京都杉並区

中村真綸

つばめの子かぜにふかれてはせのてら

長崎県島原市

佐藤絢乃

(順不同)